

優 秀 賞

世界の平和は日本の技術から

茨城大学教育学部附属中学校

二年 北野 彩 奈

「お店で出される水や生野菜は食べられないよ。」

これは私がインドネシアに行った時に、父から言われた言葉です。日本では食べられるのに、どうしてだろうと不思議に思いました。そこで父にたずねてみたら、

「日本の水道技術は高く、安全で安心出来る水が飲めるけれど、そうで無い所もあるのだよ。」

と教えてくれました。私は日本が恋しくなりました。そこで、他の国の水道技術について、調べてみようと思いました。すると、ある一枚の写真を見つけました。それは、裸足の小さい子供達が、バケツを頭の上に乗せて、水を運んでいる写真でした。とて

も辛そうな表情をしていました。子供達は、水を運ぶために多くの時間を費やし、身体にも負担がかかっているようでした。多大な時間と苦勞をかけて運んできた水ですが、JICAの資料によると、仮に水をくめたとしても水源の水質が悪く、赤痢やコレラ等の水因性疾患の原因になってしまうそうです。でも生きるためには、その水を飲むしかないのです。

また、水道が整備されている国でも、水道料金の価格が問題となっています。日本の横浜市では、水道料金が約1 US\$/m³ ですが、カンボジアのプノンペンでは、約0.11 US\$/m³ で日本の五分の一の値段です。さらにミャンマーのヤンゴンでは約0.07 US\$/m³ と安すぎる状況です。しかし、ボトル水の販売価格は、ミャンマーの地方都市では約十九 US\$/m³ と高く、多くの人は簡単に買うことができません。

そして、水道事業体にとっても問題があります。それは、水道料金面が低く、予算が貧しかったり、能力のある技術者が少なかったりと安心安全な水を届ける事が出来ないのです。(JICA「水分野の

途上国における課題」二〇二四年四月閲覧)

そこで、私は、日本の水道技術を伝える必要があるのではないかと思いました。簡単なところでは、一つ目は水質浄化剤という薬品を使用して水をきれいにし、安心して飲めるようにする方法です。二つ目は、使用した水の排水をろ過し、繰り返し使えるようにする装置を提供する方法です。

このように簡単な事から始め、最終的には、水道を整備して、安心安全な水を供給出来るような技術を、現地の人々に伝えます。そして、未来永こう持続出来るように、自分達で管理するための技術も伝えます。そうすれば子供達が水を運ぶ時間が無くなり、教育を受ける時間が出来ます。それにともない、色々な知識も得る事が出来ます。さらには、職業の選択肢も広がるため、自分の国をより良くする事に貢献出来ます。

また、SDGsにも水に関する目標があり、日本の水道技術を広める事は、子供達の未来を明るくする事でもあります。そして、教育を受けた子供達が全世界に広がる事により、世界平和にもつながるもの

だと思っています。

日本の技術を伝える事により、子供達だけではなく、大人達も豊かな生活を、送る事が出来るようになります。

安心安全な水を、一日でも早く、全世界の人々が使えるようになる事を私は心の底から願っています。